

鷲別子ども見守りたい（北海道）



隊員が付き添う全校集団下校

「自主防犯を文化に！」～子どもの見守りと高齢者の居場所づくり～

1 団体の概要

(1) 活動開始時期

平成 17 年 4 月

(2) 会員数

53 名

(3) 活動の特色

「防犯活動は地域住民が行う。自主防犯を流行ではなく文化にする。」をスローガンに活動

死角のない子ども見守り活動

学校図書館を交流の場とした子ども・高齢者の居場所づくりと高齢者宅への立ち寄り活動

協賛金や自己負担金がないローコスト活動

(4) 活動地域の情勢

登別市は、北海道南西部に広がる洞爺湖（洞爺湖町は平成 20 年のサミット首脳会議の

開催地)の東側に位置し、人口は約5万2,000人です。

北海道有数の登別温泉を抱える観光都市であり、重工業地帯の室蘭工業圏として発展しました。このため、人口の約半数は室蘭市で就業し、近接する鷲別地区に市内の人口の約46%が集中しています。

2 活動内容

(1) 登下校時の見守り活動

ア 毎日の見守り活動

班分けされた隊員が通学路の主要な交差点に立ち、併せて青色回転灯装備車による巡回を実施して、死角のない見守り活動を行っています。

また、発生した犯罪や不審者情報に対応するタイムリーな活動も行っています。

イ 月2回の集団下校

地元小学校と連携して、全学年の終業時間を調整の上、隊員参加の集団下校を行っています。

(2) 防犯環境の改善

割れ窓理論に基づく環境美化活動として、小学校前の国道及び周辺道路のゴミ拾いや周囲からの見通しの妨げとなる雑草駆除を定期的に行っています。

(3) 高齢者の支援活動

ア 小・中学生と高齢者の異世代交流

小学校の図書館を活用した児童への絵本等の読み聞かせを日常的に行っているほか、中学校で恋愛・進学等の相談を受けたり、図書館での本の朗読を行ったりしています。

また、このような場を地域の高齢者に開放し、子ども・高齢者の居場所づくりと異世代交流の機会としています。

イ 高齢者宅への立ち寄りと防犯診断

防犯パトロール実施時に高齢者宅に立ち寄り、安否確認と施錠等の防犯指導を行っています。

また、民生委員児童委員の隊員が、警察からの防犯メールや交番速報等の防犯情報を通知しており、こうした活動により、高齢者の犯罪被害の防止と孤立化の防止を図っています。

ウ 安心箱の設置

高齢者宅への安心箱の設置を行っています。安心箱とは、既往歴や投薬、アレルギーの有無、緊急連絡先等を記載したメモ紙等を収納したプラスチック製の箱のことで、救急時や入院時に役立つために取り組んでいます。

(4) 高齢者による被害防止活動の推進

振り込め詐欺の社会問題化を受け、高齢者による高齢者のための防犯寸劇を提唱し、地元町内会の老人クラブによる防犯寸劇を開催しています。当隊は、活動が円滑に行われるよう、脚本の作成や場所の手配、配役等のサポートを行っています。

この活動は、犯罪被害の防止のみならず、高齢者の社会活動への参加促進と孤立化防止といった生き甲斐づくりにも配慮して行っており、現在では、他の地域にも同様の活動が波及しています。

3 活動経費の確保

会費の徴収はなく、助成金や賛助金も受けていません。

活動に要する経費は、安心箱や街頭清掃活動時のゴミ袋、軍手の購入費等であり、年間7,000～8,000円程度のローコストで活動しています。

費用の調達は、町内会の各家庭から書き損じの葉書や余った年賀はがきの提供を受け、郵便局で換金することで捻出しています。

4 今後の課題

自主防犯を文化にするためには、基本的な活動と成果を定着させながら、幅広い年代や社会の理解と協力を得て、活動の気運を高め、自主防犯活動の一層の拡充を図ることが必要です。

私たちは、このような活動を通じ、世代を超えた地域社会の連帯意識と絆づくりに貢献したいと考えています。

鷺別子ども見守りたい（北海道）

只今から北海道登別市の「鷺別子ども見守りたい」の発表をさせていただきます。

私は会長を務めております池畠と申します。同じく事務局長の松平でございます。またパワーポイント操作担当は副会長の稲葉です。どうぞよろしくお願いいたします。

まちの紹介

では最初に私から登別市の簡単なお紹介をさせていただきます。

登別市は北海道の南西部に位置し、南は太平洋に面しております。札幌市からの距離はほぼ 100 キロメートルで、高速道路で約 1 時間半です。また一昨年の洞爺湖サミットが開催された洞爺湖町は、登別市の西方約 20 キロメートルに位置しております。

人口は約 5 万 2,000 人で、美しい自然と北海道有数の観光名所、登別温泉を有し、年間観光客数は 300 万人を超えます。最近は特に中国、韓国、台湾などからの旅行者が多くなっております。

「登別」という地名はアイヌ語の「ヌプリベツ」「色の濃い川」に由来しております。

私たちが活動している鷺別地区は、登別市の西方に位置し、「鉄の街」室蘭市と接しています。鷺別地区に人口の 46%、約 2 万 4,000 人が集中しています。

では「鷺別子ども見守りたい」の具体的な活動内容については事務局長の松平孝子よりご説明申し上げます。

団体概要

北海道登別市から参りました事務局長の松平です。よろしくお願いいたします。

説明に入る前に、私が発表する内容の項目を先に申し上げます。

発表内容は大きな項目で 5 つ

団体概要

犯罪発生状況

活動内容

活動経費

今後の課題

この順番で行ってまいります。

それでは私たちの団体の始まりからご説明いたします。

平成 16 年から 17 年に全国で小学生が犠牲となる凶悪な事件が続いておりました。同時期、鷺別地区においても不審者出没が相次ぎました。



驚別の宝、いえ日本の宝である子ども達を一人でも失うことがあってはならない！という思いを抱きました。

そこで登下校の見守りくらいなら主婦でもと思い、平成17年4月、警察から腕章を貸していただき、主婦4人でパトロールを始めました。

当初は、「登下校時の通学路での見守り」、「犬の散歩を兼ねたパトロール」、「不審者出没箇所の重点パトロール」を行いました。

地道に毎日活動することで住民の方々に覚えてもらい、徐々に認知度は上がりました。

苦労した点は、4人しかいないため不審者出没時の見回りが追いつかなかったこと、色々な方に協力をお願いしましたが断られたこと、心ないドライバーから悪態をつかれたことなどです。そんなとき、お孫さんをお持ちの女性から、「是非やりましょう。日頃からどうやって孫を守っていこうか考えていたところです。」と背中を押してもらいました。

しかしながら、人手不足を痛感し、各種団体に働きかけを行いました。

まず「驚別地区連合町内会」の池畠会長に相談いたしましたところ、快く賛同していただき、傘下の9単位町内会に協力を呼びかけてもらえることとなりました。その結果、30名の方々が参加してくださいました。

それから民生委員や小学校PTAの皆さんにも説明し、多数の方に参加していただきました。また毎日犬の散歩をさせている人に腕章を付けてもらったところ、そのまま加入した例もありました。

これにより我々の団体は総勢53名に増えました。年齢は35歳から80歳までで、平均年齢は65歳です。

写真は平成17年11月、不審者が出たためにパトロールしたときのものですが、これが「驚別子ども見守りたい」の実質的な旗揚げの日となりました。

翌、平成18年、北海道と登別市が支援している子育て事業「せわやき・せわずき隊」に認定され、これにより防犯ジャンパーを貸してもらえることとなりました。

組織の維持については、毎日の見守り活動、いわゆる青パトでのパトロール活動、定期的な研修会や会議の実施、そして新しい活動の展開によりマンネリ化を防いでいます。左の写真は、青パト担当者の定例会議の様子です。



年2回、研修会を開催し室蘭警察署生活安全課の方に講演していただいています。

小学校の登下校時の見守り活動を基本としながら新しい活動も始めております。例えば、中学校の学校祭期間中の夜間パトロール、子どもと保護者が一緒に参加するエ



プロンシアターなどです。写真は「大きなかぶ」というお話を
 実演しているところです。

このほか、保育所、小学校、老人クラブなどで、子どもへの
 絵本の読み聞かせや高齢者の居場所づくりなども行っています。
 このような多彩な活動を行うことが隊員のモチベーション
 の維持にもつながっています。



地域の状況

次に鷺別地区の状況ですが、JR室蘭本線と海岸線に挟まれており、その中央を国道36号
 線が走っています。

鷺別駅の周辺には小中学校のほか高校、国立大学、看護学校などが点在しています。

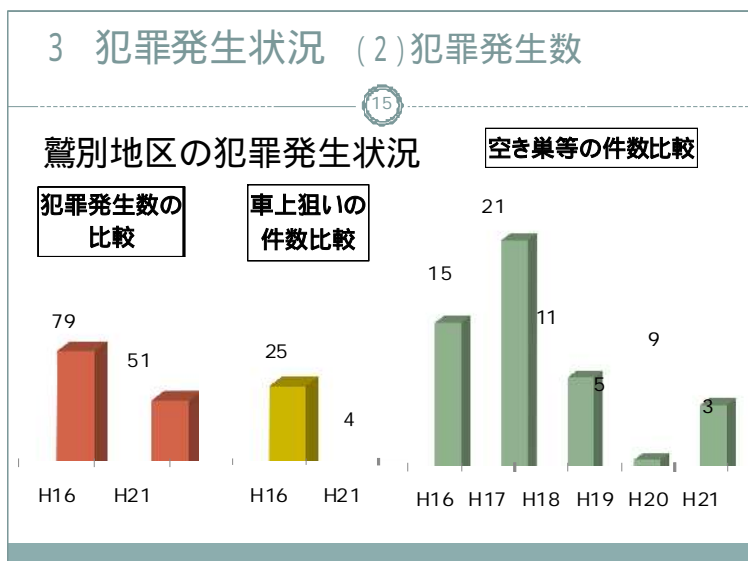
このような環境から、若い女性や子どもが鷺別駅の地下通路を通ることが多いのですが、
 この通路はとても長くて向こう側の出口が見えず、怖いところです。事実、不審者がよく出
 没しておりました。

次に鷺別地区を管轄する室蘭警察署新生交番の管轄区域「全体」についてご説明いたしま
 す。

この区域は、ここ数年新興住宅地の開発と併せて大型スーパー、ショッピングモール、大
 型ホームセンター、場外馬券場などの大きな施設が次々と建てられるなど、活気にあふれて
 います。

このような状況から、室蘭警察署全体の犯罪発生件数は減少しているのに、新生交番管内
 の犯罪発生件数は増加傾向にありました。

犯罪発生状況



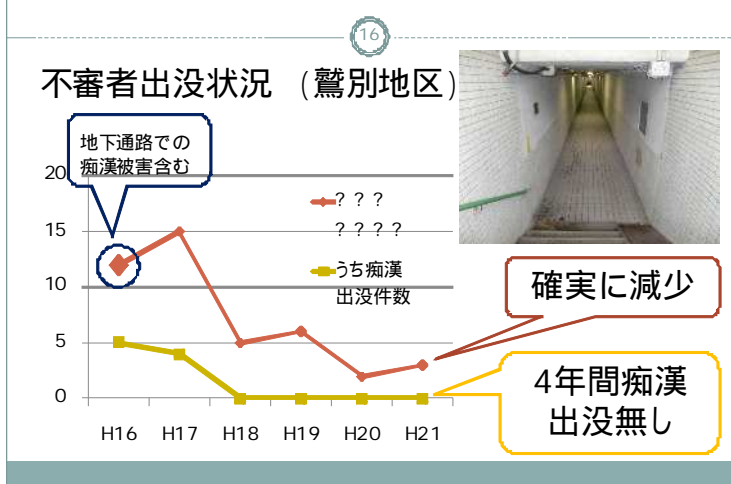
鷺別地区の犯罪発生状況につ
 いてご説明します。

まず刑法犯全体についてで
 すが、活動開始前の平成16年
 には79件発生しておりました
 が、昨年は51件まで減少して
 おります。

また、車上狙いは25件から
 4件に激減。空き巣などの侵入
 窃盗犯も15~20件あったもの
 がここ3年間は一桁台にまで
 減少しています。

強盗などの凶悪犯は、ここ2
 年間発生しておりません。

3 犯罪発生状況 (3)不審者出沒数



次に不審者の出沒状況を見えます。

グラフの通り、不審者の出沒件数はこの5年間確実に減っております。

痴漢被害の発生については、平成16年の不審者発生件数12件の中に先ほどの地下通路で身体を触られる痴漢被害も数件含まれていますが、平成18年以降の発生はありません。

活動内容

子どもの安全確保

次に活動内容についてご説明します。

毎日の活動として、地元小中学校周辺の主な交差点に隊員を配置して見守りを行っております。老人クラブの方々も一緒に朝の見守りを行ってくださっています。

また、青パトによる巡回パトロールを毎日の登下校時に行っております。登録車両は現在10台、登録隊員数は17名で、通学路の交差点に立つ隊員の目が届かない場所を優先してパトロールを行っております。

毎月青パト会議を開催し、翌月のパトロール担当者の巡回シフト表を作成しています。このほか、危険な場所、重点的にパトロールすべき場所等について情報交換を行っております。

小学校の全校児童の集団下校への付き添いを月に2回行っております。全学年の授業が同時に終わるよう学校側に時間割を調整してもらっております。

隊員のほか、地元の方々が参加することもあります。

4 活動内容 (1)登下校時

イ 集団下校への付き添い

- ・ 月2回集団下校日設定 … 小学校の協力



8コースの通学路毎に隊員を分け、児童と一緒に下校し、途中で危険箇所の確認、子ども110番の家の確認、交通ルールの指導なども行っております。

なお、新入学児童については、月2回の付き添い下校とは別に、入学式の翌日から一週間連続で特別に実施しております。

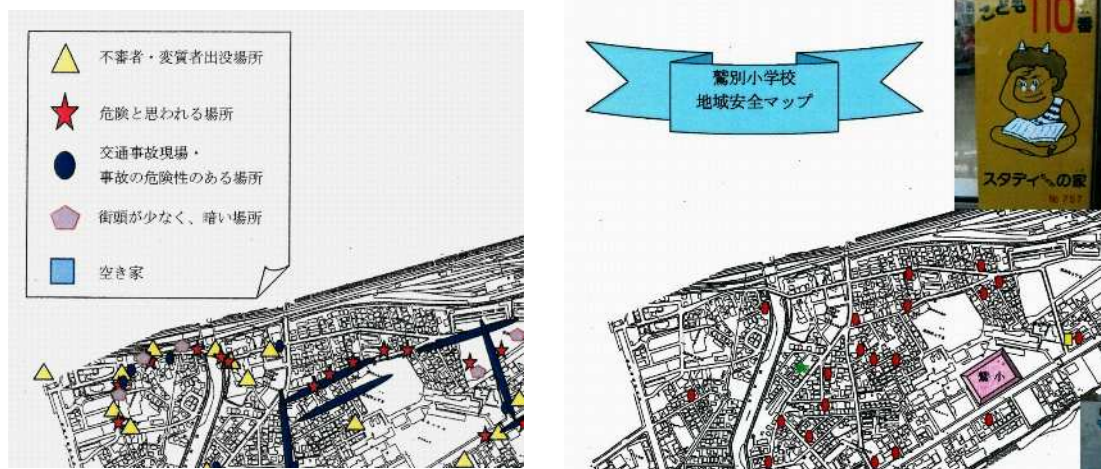
左側のマップは学校や警察のご協力により作成したものです。不審者の出没や危険な場所を表示しています。

4 活動内容 (1) 登下校時

21

イ 集団下校への付添い

・ 地域安全マップ



右側のマップは、子ども 110 番の家などを表示しております。

いずれのマップも全児童に配布し、注意するよう呼びかけています。

また、小学校での防犯教室に参加し、不審者に遭った時の対応について紙芝居や寸劇などを通してお手伝いしています。

地域安全活動

次に地域安全活動についてご説明いたします。

割れ窓理論に基づく犯罪被害の予防のため、鷺別小学校前の国道 36 号線や周辺道路でゴミ拾いや雑草除去活動を定期的に行っています。

次に交通危険箇所対策の事例についてお話しします。

これは小学校と道路を隔てて隣にあるコンビニ付近の様子です。

4 活動内容 (2) 地域安全活動

24

イ 交通危険箇所対策

- コンビニ駐車場へのガードレール設置事例



これはコンビニ側から学校方向を見た写真です。学校敷地とコンビニ敷地の間に脇道があり、横断歩道があります。

この赤い丸で示したガードレールと花壇は以前はありませんでした。

そのため青い矢印のように、国道から横断歩道を斜めに横切って高速で駐車場に進入してくる車が多く、横断歩道を渡っている児童がいる場合、歩道橋に遮られて死角になり、非常に危険な状態でした。

そこで店主の理解を得たうえで道路管理者に働き掛け、ガードレールと花壇の設置にこぎつけることができました。

4 活動内容 (2) 地域安全活動

25

イ 交通危険箇所対策

- コンビニ駐車場へのガードレール設置事例



高齢者との交流

次に高齢者との交流についてお話しします。

小学校の空き教室を利用した絵本の読み聞かせを「おはなしりぼん」と呼んでいます。

また、鷲別中学校では恋愛や進学相談を受けている隊員がおり、本の朗読も年数回実施しております。

これらの活動を高齢者と子供たちの触れ合いの場にしたらどうかと考え、現在は高齢者にも学校に来ていただき、子ども達と一緒に読み聞かせに参加してもらっています。

閉じこもりがちになる高齢者の「居場所づくり」だけでなく、子どもと高齢者の触れ合いを通じた育成の場にもなっているのではないかと考えています。

また、急な入院や救急搬送の時に役立つように「安心箱」の設置を推進しています。

「健康保険証のコピー」、「病気既往歴」、「服用中の薬」、「アレルギーやペースメーカーの有無」、「緊急連絡先」などを記入した用紙、そして「下着」、「タオル」など入院に必要な日用品をプラスチックケースに入れて

寝室に置き、玄関先に「安心箱設置の家」と書いたステッカーを貼っておきます。

こうしておくことで、救急隊員が必要な情報を把握することができ、安心です。

ケースは災害時に水を汲むこともできます。

4 活動内容 (3) 高齢者との交流

27

小学校空き教室
中学校図書室



居場所づくり

異世代交流



高齢者にも開放



4 活動内容 (4) 高齢者支援

30

イ 「立ち寄り」と「防犯指導」

- 安否確認・施錠の確認・防犯指導
- 防犯メール・交番速報の配布



新聞で取り上げられ、他の町内会や老人クラブから説明会の依頼もあり、町内会予算で全独居老人世帯に導入を決めたところもあります。

パトロールなどの際、高齢者宅に立ち寄り、安否、施錠等の防犯確認・指導を実施しております。

また、民生委員でもある隊員が、警察からの防犯メールを印刷したものや、交番速報を配布し、情報が届きにくい高齢者への啓発を行っています。

高齢者による振り込め詐欺防止寸劇

次は高齢者の振り込め詐欺寸劇についてです。

高齢者自らが寸劇を実演して身をもって体験すれば、より効果があるのではないかと考え、老人クラブにお話をして実現いたしました。

場所は町内会館ですので料金もかかりません。定例会などの際、発表を行っています。



これが寸劇実演中の様子です。

左端のサングラスをかけた犯人役は池島会長です。

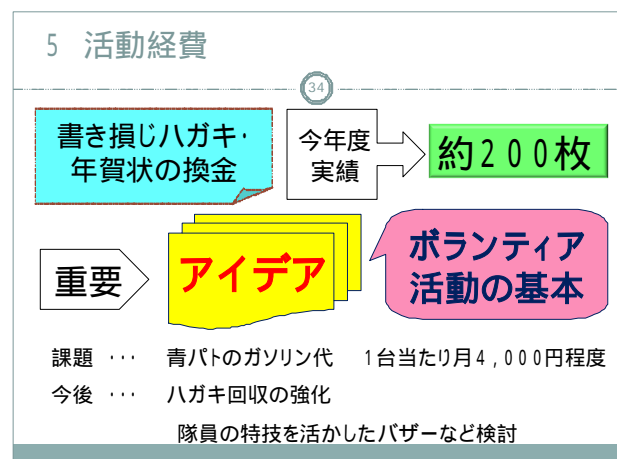
この寸劇は他の老人クラブにも話が伝わり、現在登別市3カ所、室蘭市1カ所の老人クラブに波及しているとのこと。

活動経費

次に活動経費についてご説明いたします。

私たちは結成当初から会費はなし、「補助金・助成金」等は受けずにやってきました。

経費は安心箱、街頭清掃時の軍手代などで、年間7,000~8,000円程度のローコストです。この費用は、書き損じハガキや余った年賀状を集めて、郵便局で換金することで捻出しています。



今年は 200 枚前後のハガキが集まりました。書き損じハガキを集めておいてくれる家庭も増えました。

大事なことは「アイデア」を出すことだと思います。お金、時間、体力がなくても、アイデア次第で何かができる。これこそがボランティア活動の基本なのだと思います。

課題として、青パトのガソリン代は月 4,000 円ほどの個人負担となっています。これを解消するためハガキをもっと多く集めるほか、手芸など隊員の特技を活かしたバザーなどを検討中です。

今後の課題

今後の課題についてご説明します。

現在のメンバーによる活動を単なる一時的な流行で終わらせず、自主防犯を鷲別町の文化として継続させるためには年代や職域を超えて浸透させていく必要があります。

いずれ来る世代交代に対応できる組織を作らなければなりませんので、小学校の P T A など若い世代への働きかけを強めているところです。

P T A 会議に出席して参加を呼びかけるほか、運動会や入学式などの行事に参加し、私たちの活動を知ってもらうようにしています。

最後に、昨年、鷲別小学校児童会からの感謝状をいただいたことを紹介します。

これは子どもたち自らが発案し贈ってくれたものです。

これまでの活動が地域に根付いたこと、子ども達の間にも「いつも見守ってくれてありがとう」という感謝の気持ちが広がったことを実感し、続けてきて良かったと本当にうれしく思います。

一年生から手作りのメダルを頂いたこともありました。手紙を貰ったこともあります。

手紙には「いつも手をつないでいただいてありがとう。私も大きくなったらパトロール隊員になりたいです。」と書いてありました。やった憧れられた、同時に憧れる存在になったという風に思いました。

道を歩いているときに向こうから来た子ども達が、「パトロール隊の人だよ。」と教えていることがあります。顔を覚えてくれていたんだなと思いました。

6 年生が卒業するときに、「6 年間ありがとうございました。」と深々と頭を下げられた隊員さんが感動して、校長先生にすぐ感謝の電話をしたことがあります。

いずれこの子達が大人になって私たちの活動に参加して、次の世代に子ども達を見守っていく。地域で地域を守り続ける。そんな日が来ることを期待しながら続けています。



これまでお話しした活動内容は、学校や地域住民の方々はもちろん、登別市、室蘭警察署、室蘭登別防犯協会連合会などのご協力があったことです。

そのことを皆様方にお伝えし、感謝を申し上げ、私の発表を終わります。ありがとうございました。



司会 たった4人で始めた活動が、日々の努力の積み重ねで周囲の人々の理解を得てこのように大きくなった。「コツコツ」と活動することの重要性をあらためて感じました。

何かご質問はございますか？

質問 後継者の問題についてはどのようにお考えでしょうか？

回答 今の発表にもありましたように、PTA・学校に呼びかけ私たちの活動がどのように生かされているのか、どのように見えているのか、そういうことを私たち自身も理解し、そして住民の方々にも理解していただき、後継者が一人でも多く出てくることを期待して活動しております。

質問 ジャンパーなど備品が整っていましたが、警察・防犯協会ではどのような支援をいただいているのか教えてください。

回答 警察では腕章を貸していただいています。そしてパトロールのとき、時間のあるときには随行していただいたりしています。また研修も受けさせていただいています。

私たちは月2回の集団下校パトロールのとき、来月の予定と「こういうことがありました。」「今回このような発表の機会をいただきました。」などのことを会員の皆さんだけでなく、警察にも伝えており、警察からアドバイスをいただいたりしています。先ほど会長からお話がありましたが、入学式には新入生の父兄が沢山来ていますので、次年度の入学式のときに学校側からパトロール隊を紹介してもらおうことにしています。

ジャンパーについては、寄贈を受けて着ております。